

USAID発表記事からの抜粋

タイトル:

セネガルの「さかさま」の木、バオバブは、地域の農産物として現地の人にたくさんの恵みをもたらす。
(セネガル|経済成長|2004より引用)

「なんと不思議な形をしているのだろう」

初めて見た人は、思わず目を見はってしまいます。

その木こそ、実はセネガルの田舎の貧しい人たちにたくさんの恵みを与えているフルーツの木、バオバブです。

バオバブは、アフリカにだけ遍在する木です。

旅行者は「さかさまの形をしている木だ」と、不思議な形にびっくりします。

この不思議な形をした木は、地域の人々に、たくさんの恵みを与えてきました。

果実や樹皮は、現地の人が生活をする上で色々な場面で役に立っています。

巨大な木の幹、よじれた枝、厚い皮でおおわれた果実、この不思議な形は、バオバブが乾燥した厳しい気候を生き抜くために、自然がもたらした恵みです。

果肉は、炎症と下痢を予防するために食され、ビタミンCやミネラルの豊富なおいしいジュースとして水に溶かして飲まれています。

樹皮はロープを作るのに用いられ、葉は鍋に入れて、この地方の料理の香味をつけるのに利用されています。

たくさんの人が、果肉は肌のための良いと言っています。

バオバブにはほかにもたくさんの良いところがあります。

しかし、これをお金に変えるのは、簡単なことではありませんでした。

アダマ・トラオレは、セネガル中心部にあるウオレイババカール村に住む農民で、長年にわたってバオバブフルーツを取獲して収入を得ようとしてきましたが、それは大変苦勞が多い作業でした。

ピークのシーズンには、1日で2袋の割れた果実を集めました。それを、村を巡回してくるバイヤーに売りましたが、殻の割れたバオバブ25kg袋で、たったの2000CFA(ほぼ4ドル)しか払ってくれません。

時には、それさえ支払ってもらえないこともありました。

アダマは、もう少し高い値段で売りたいと思い、20km離れたコチアリのマーケットに、バオバブフルーツに行きました。

しかし、そこにいる「bana-bana」バイヤー達は、アダマには売る店がないことをいいことに、購入価格を決めるカルテルを作っていたのです。

そのため、彼らが提示した値段に応じるしかなかったのです。輸送費を差し引くと、村で果実を販売するより、さらに少ない利益にしかならないこともたびたびありました。Wula Nafaa、これは米国国際開発局(USAID)が融資するプロジェクトで、2003年8月に、バオバブ農家の利益を増やそうと、介入しました。

その活動として、Baobab Fruit Company(BFC)と協力して業務を行うことになりました。BFCは、イタリアの製薬会社で、バオバブの種子や果肉、殻、葉っぱを使ったオリジナルのフェースクリームや美容商品を製造しています。

※BFCのホームページは(<http://www.baobabfruitco.com>)

BFCは、仲介者を通して、殻が割れていない無傷のバオバブを持ちこんだ農民には、最高87パーセントまで価格を引き上げると、約束しました。

その結果地域には約20,000ドルの収入が得られるまでになりました。森林の農民達はこの話題に関心を持ちました。ビジネスマンのマハ・シソコは、BFCから提案された価格を聞いて、「バオバブフルーツを売る代わりに、今年から自分が生産者になろうと決めた」と話しています。セネガルBala地域でWula Nafaaの仕事をしている人達は、将来もっと収穫高を増やそうと、バオバブ生産者グループをつくり、バオバブ生産者と一緒に働いています。

シェイク・ディオブは、今ではWalyババカールで、バオバブ生産者グループに参加しているアクティブなメンバーですが、BFCに32袋を売って、140ドルの利益を上げたとのこと。殻が割れたフルーツも、最近では約25パーセントアップの価格になりました。

アダマの話によれば、2003年において、昔からずっと作ってきた作物のピーナッツ、トウモロコシ、キビより、バオバブフルーツの方が収穫高が良かったと言っています。

彼は、今では農業改革者として名声を博しており、村では彼のことを、バンバラ族の言葉でWula Nafaaというニックネームで呼んでいます。「森林の恵み」という意味です。